

鶴山先生著

解克子硯

文曉堂兌行



隄田

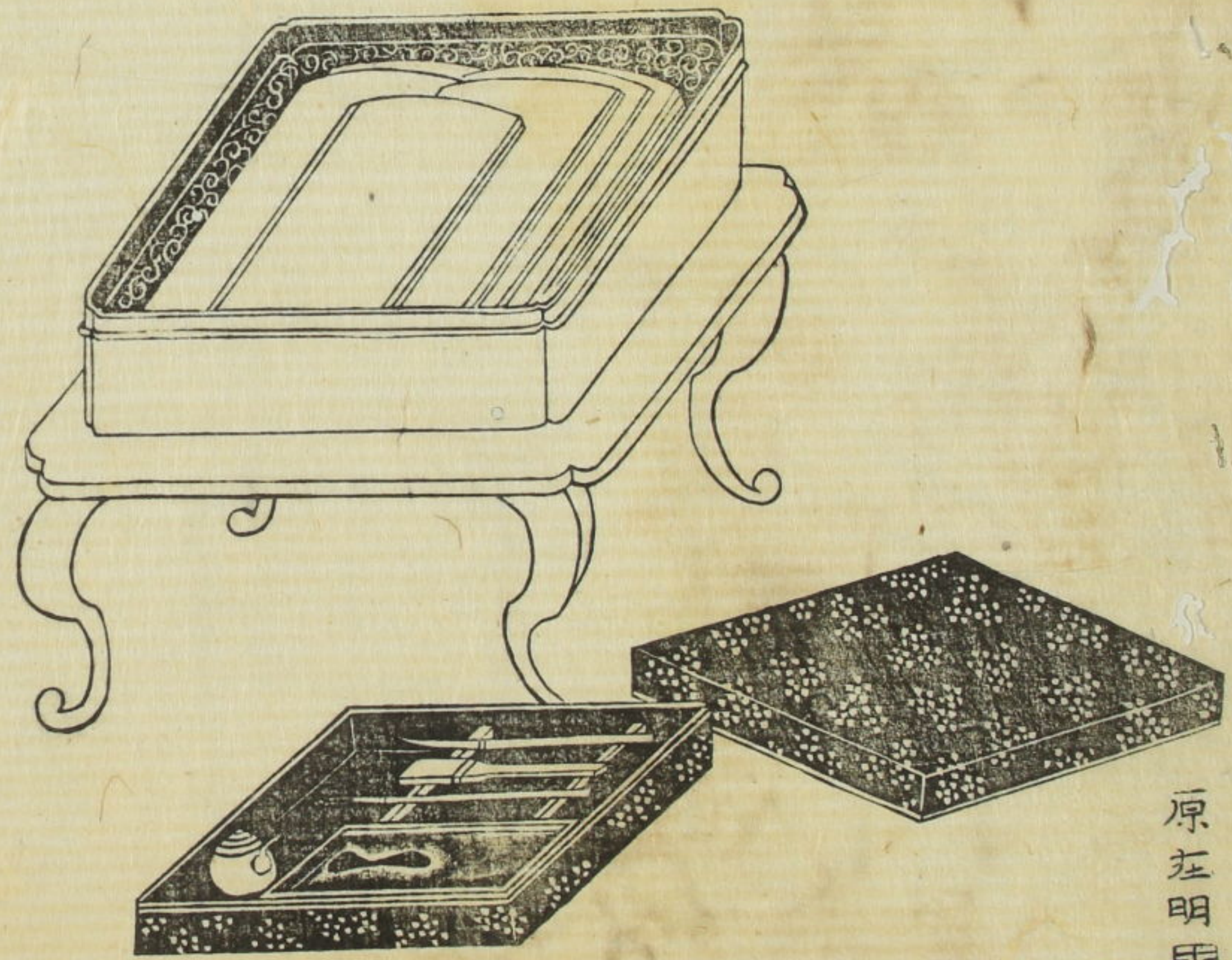
耕田

墨齋



四方研序

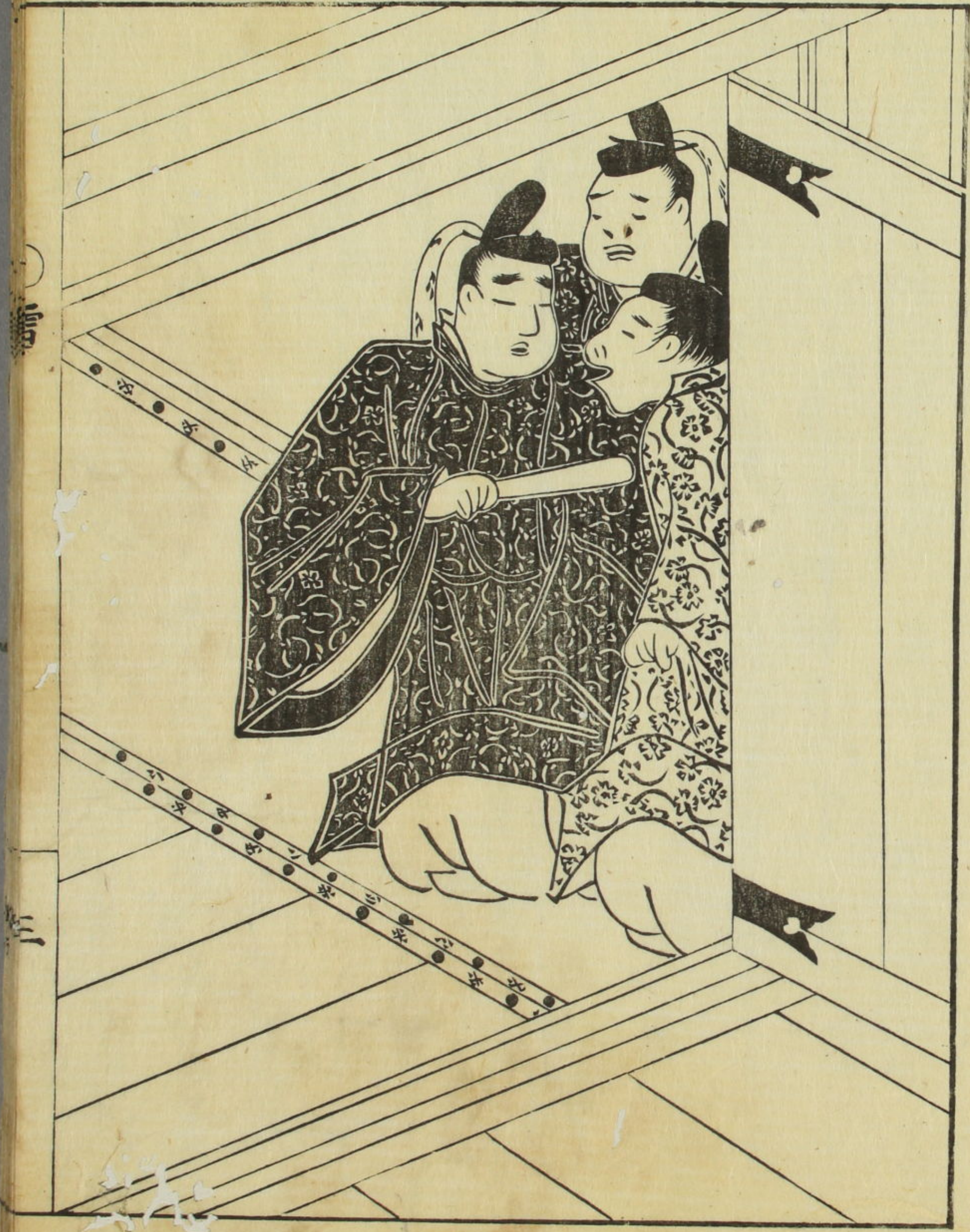
凡令之人不進而別於速者其為
故不務其重而求備其一星松
筆之表得之心長之漸年之於後
新人為者亦不能非富為自平
唯以捷徑為安抑自然之勢也



原在明圖

東友烟霞山房南窓書。每讀
於此。且交道。其書異聞并錄。
系堆郵每三冊。名四方研。善石誌
古雅。書云。閱之。書在書故。引并
及今。官女。証隨。接讀。益者。其意
美。非石秋。涉。且。必。自。述。也。解。待

其。玉。其。以。爲。子。也。今。始。順。其。勢
之。流。則。於。世。之。事。以。看。其。能。讓
書。者。自。得。其。矣。方。硯。之。受。其
計。程。水。字。亦。有。海。之。措。名。是
冊。其。序。字。其。契。典。故。之。後。教。之
一。端。耳



うりやと死所をうりや

源頼武の長

引くや心のまふあひさう

ねをいふて年をいふて

寄車述懐

妙老の回入

今いふと車はかきんふりて

はくちのうらまゝのうらまゝ

寄石述懐

前大相の老臣

命あ終るをいふていふて

まゝのうらまゝのうらまゝ

入道右大臣

里よりいふておろのうらまゝ

つゝのうらまゝのうらまゝ

兵部卿の親王のうらまゝ

本此のうらまゝのうらまゝ

ていふていふていふて

このうらまゝのうらまゝ南の興復乃志あり

おれ集りて一人のうらまゝのうらまゝ

雄乃人多し二十一代集りていふて

○新井君の年少乃時河村瑞見のうらまゝ

せうの瑞見も志ありていふて

孝業此のうらまゝのうらまゝ

春秋宿中今より志願して學業此海あり死に
 陸し志しこれより學業成就するあり
 んやとり君美あの一云い憤費し日お勸学
 不悔し後海内無奴の學士となり官亦正徳の比
 君は竊過せし終に國家に益ありといふ瑞見を
 學不術の志を以ともけ是見豪華といふ一君を
 終身その言を人々もあしあせしと云ふ
 ○右備乃國民君一人の學士なり書つるに
 聖意不志ありし一と也國を此館しめされ
 孟子以徳しとるのく人ふ徳ける士あり其の徳
 此中よりあつて同くせし志りあふるをせし

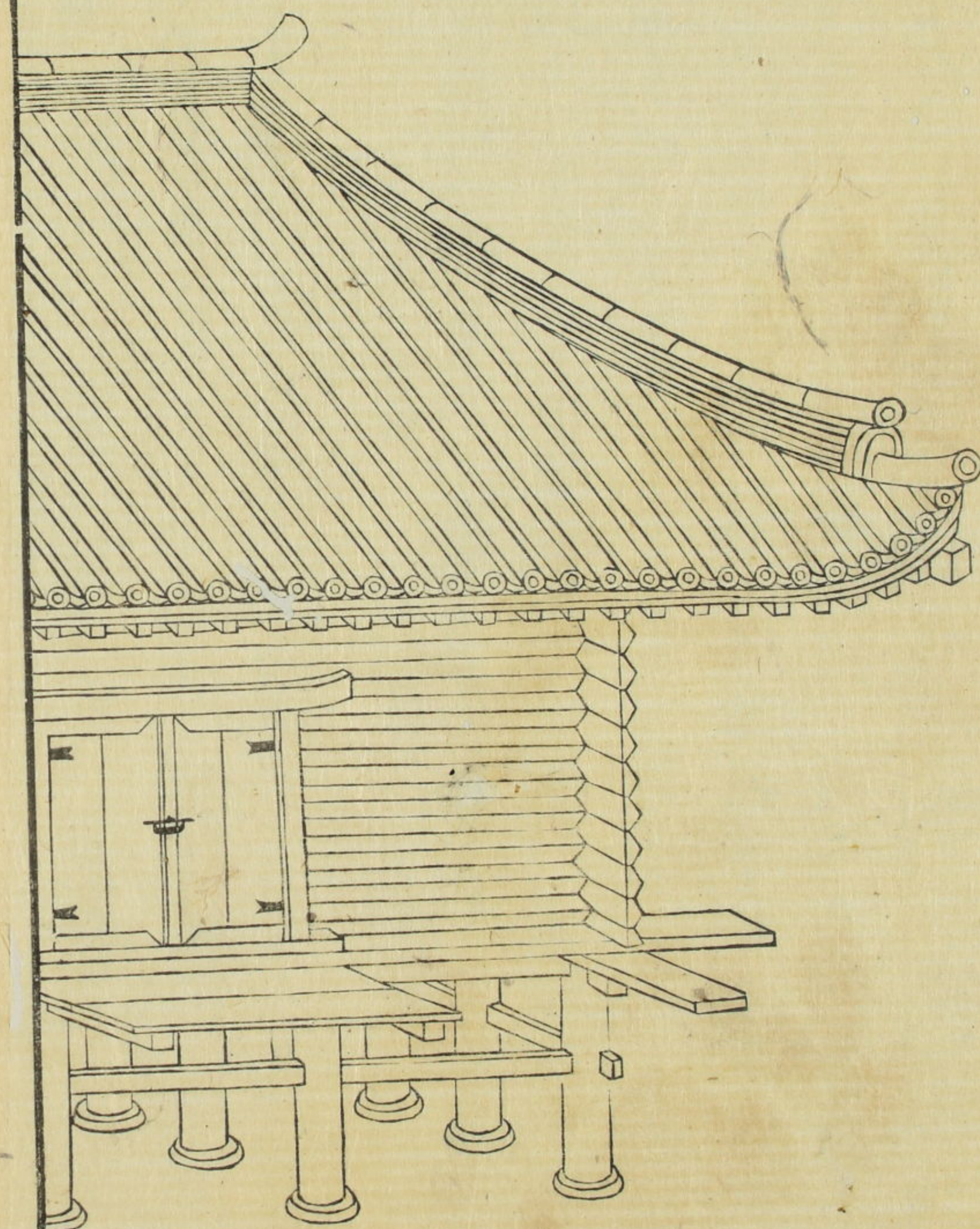
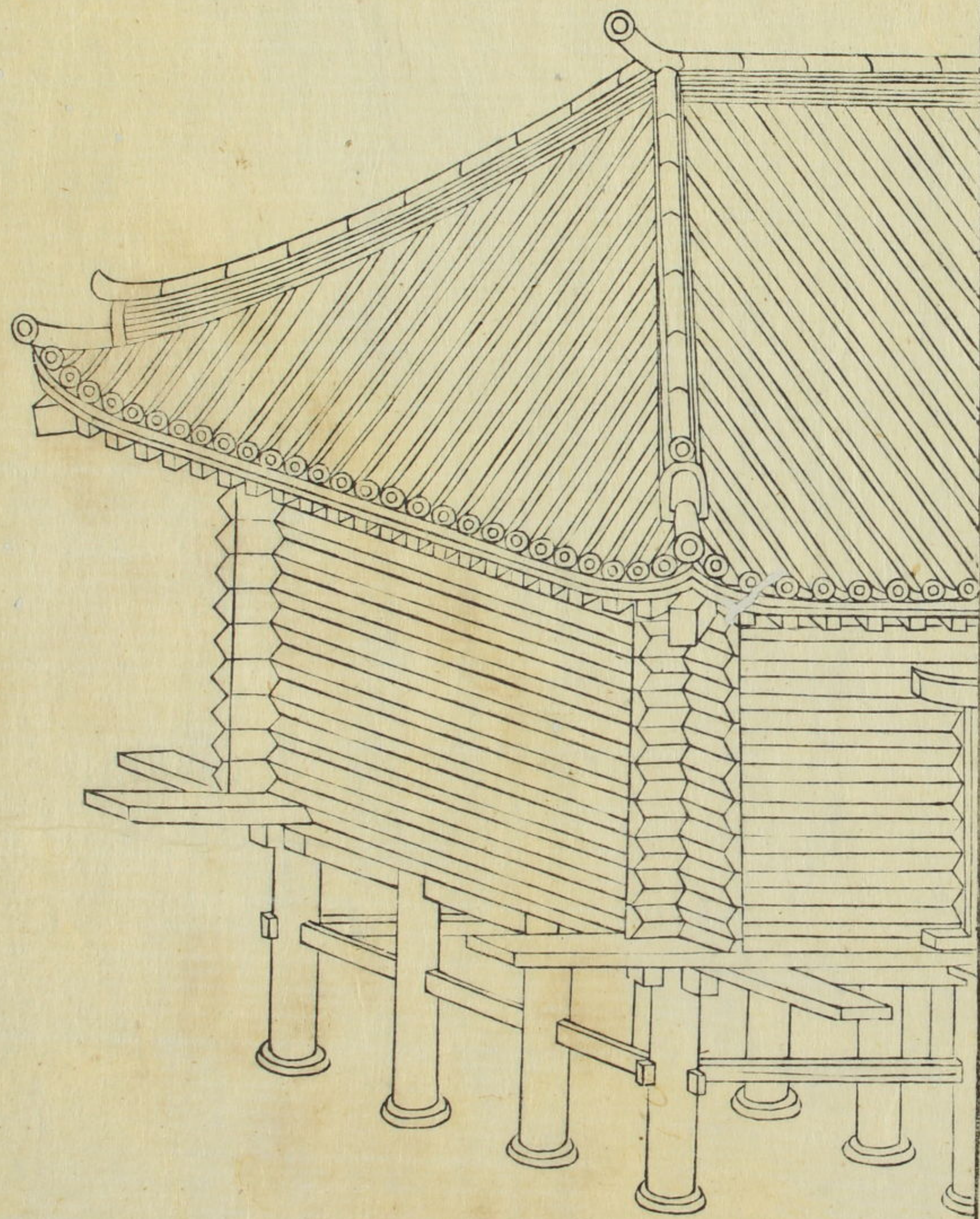
ありそれともかやれはせしむるに徳しぬ徳終り
 とつらなることあかく志願ふそやいんも士乃曰
 君度の前は海耳しあけりけりる處さこそ言あふ
 それと志せしむるありと徳しと云いんれぬ學
 士曰くわしともの、高きれ前より勉むるに徳は法と
 じらん聖賢乃及を君のきく終るあり海耳し
 あり終るありと徳を止むしと云いぬ國のこれ
 と云う終るしと云いぬも中けるもの如聖賢の及を徳
 し終る終るふ所をれいそつるむあしんや耳し
 とつらととつらと我志しあし終る終るしと云いぬ
 力をけりし徳せし命せしれと云いぬ學士以しと云

とて是愛ありんばの災とて也 皇居カウキヨ小住ありん
とて紙とてちやちやせぬふ左右抄とてはるるにふと
る也官曰善山家の権禰本よりせむく枝葉をわれり昔
幼より身とてくありかの枝葉をわめぬ時を京師とて
とて是愛ありとてとてとてその翌申年系沙大少回縁の
愛ありとて三年はけりえくかり也

○仙臺邸センダイ之中長老所新所西ありとてせ留ル官阿部
系法セウのり筆とてのみと吹すふとありとて曰成亥シありと
てとて莫鐘調ワウシキチヨウ乃とてありとてありとて予耳ミミ言律と解ゲせん
祖ソ芳ホウ先ホウ禪ゼン曰妙心寺の禪とて莫鐘調とて兼好ケンコウ院イン
とて小仁コニ和ワとて此法コニカウ蓮レン院イン此禪とて黃鐘調ワウシキチヨウありとてありと

是なりと阿部氏此予ふとてりへふの禪ありとてせ備ふ
此浦上氏佐神氏とて此の権禰のりとのありとてとて浦
上氏言律と解とてこの禪とて禰ありとてとて其後阿部氏
仙臺とてりて京沙小所とてこれありとて小所とてとて

○古の國司ハ國守小ある國造ハ郡司小ある國司とてと
守シ云とてとて小ありとて守以下一國の官と云大上中下國
官小とて守ありとて文武希此世とて國守とて以り出雲の
ふと國造のこれとて紀此國とて隠列とて外ソトとてふと國
造乃名とてのこれあり中昔任國ニシとてふとありとてのふ乃
守小任とてられと四年のる其國とてとてとてとてとて
國とて受領ジュリョウとてとてとて紀の貫之土佐此ふととて



此の巻に花もなると此の巻に

よせくびるしくろくあし

その時のキヤニウ回菊堂といふやうなれし時かくもの
ア〜ぬとを

○よろつものしものありくふとる人のワ〜しと
くもの形や人そのあ〜りアヒ一まのな〜りぬハキカン問
去佐光信ミツノブ画エガる一軸ナカありやとを〜は画い〜る
人乃画よ〜あるやを〜か〜人〜年ニハの
ワ〜あ〜のあり〜人〜年ニハの
去佐の画〜あ〜ぬ〜結カミり〜姿スガタ
〜かかくありし〜も土佐れ國ありと〜

ひし〜れい〜あ〜の〜ぬ

○倣書チツシヨキ記の表ハシ書シヨキといふ題トキを〜

おもと〜るり人の松の〜

〜れある年れ〜と〜

この〜都ト鄙ビとも〜
道行〜
衆の暮アキふトビ高人のひそ〜
らんと〜のあり〜
人泉イハを〜り山ヤマ中ナカ時トキ流リウる〜

○観

〜人〜



善事とてあきとめざる所の

これ志のふせははくして

○二人九北秘妙やのふ書不困爐志といふりとい
せり清あまのいふの倚廬乃てふく心むなり二人
九の河内前司親行なり定家卿に叔父とてあつた
はくしりあしり人なり

○彦根乃てりし隠士某といふあり侍考といふ
四男あり然るにぬ或向て曰是下北國大徳彦といふ
学校ありてそあやし彦根某亦儒者といふ組
なる人羅山先生成中といふく大徳彦と稱せり彦根
てありはくしりて國光曰吾人の乃ていじりてあり

君との乃てうやまひはくしり民衆をさうせんやとい
ふれは彦根曰我志といふは志を酒の儀とてさうや
異なりといふれとも當時武備とゆふはる時ふあは
と心とれ彦根は是より彦中羅山とていふく彦根
をさうはくしり彦根の心とてさうといふ予曰い
多田信仲晩年といふり佛に帰依し信慧信一
受戒の時不殺戒といふりはくしりて耳とてはるう如
英雄豪傑のゆふもいふ今古とてさういふ昇平とい
はくしりく當今の学校ありて大管氏龍氏をてて文章
をさうはくしり彦根はくしり

○香祖筆記云村中兒童聽說三國事聞昭烈敗則

檀^{ヒン}慶^セ聞^キ曹^{ソウ}操^{ソウ}敗^ト則^ト歡^ク喜^キ踊^ユ躍^{ダク}ワ^クの國^{クニ}も^カか^ク新^{シン}を^シあ^シ
けり^{カネ}玄^{ケン}惠^ヱ太^{タイ}平^{ヘイ}紀^キと^シ後^ゴと^シさ^クく^ク小^コ思^シ重^{ジュウ}と^シ以^イへ^テも^モ楠^{ナン}白^{ハク}成^{セイ}
敗^{クハ}軍^{クン}を^シさ^クら^シり^テの^ノ輦^{ハク}慶^{セイ}と^シ北^{ホク}軍^{クン}敗^{クハ}と^シさ^クけ^テハ^クら^シり^テこ^トし^テ
踊^ユ躍^{ダク}と^シ人^{ニン}の^ノ愚^グ人^{ニン}と^シよ^クら^シる^ル愚^グ民^{ミン}と^シら^シり^テこ^トし^テの^ノ倭^ワ倭^ワ同^{ドウ}
日^{ニチ}れ^レ備^ヒる^ル演^{エン}義^ギ之^ノ國^{クニ}志^シと^シし^テし^テ人^{ニン}情^{セイ}の^ノお^シり^テ
る^ル皆^ミ御^ミ成^{セイ}合^カと^シる^ル一^{イツ}吳^ウ邦^{ホウ}人^{ニン}亦^モ亦^モの^ノを^シ平^{ヘイ}紀^キと^シる^ル一^{イツ}
か^クあ^ラん^トと^シい^ハん^トら^シぬ

○僅^{サイ}三^{サン}日^{ニチ}延^{エン}長^{チヤウ}乃^ノ時^ジ信^{シン}玉^{ギョク}より^{ヨリ}首^{ミヅギ}取^リ細^コ一^{イツ}子^シ信^{シン}あり^ト
一^{イツ}條^{テウ}彈^{タン}固^コ此^{ココ}流^{リウ}る^ルれ^ト源^{ゲン}順^{ジュン}の^ノ如^ニ名^ナ抄^{セウ}脱^{ダツ}出^{シュツ}て^テ於^{ココ}ら^シを^シ
そ^ノ自^ミら^シる^ル子^シ信^{シン}と^シの^ノ中^{ナカ}に^ニ誤^{サマシ}る^ル一^{イツ}い^ハて^テ亦^モこ^トの^ノ此^{ココ}字^ジは^ハ
又^{マタ}句^クれ^レ首^{ミヅギ}と^シある^ルより^{ヨリ}僅^{サイ}三^{サン}日^{ニチ}延^{エン}長^{チヤウ}乃^ノ時^ジ信^{シン}玉^{ギョク}と^シる^ル一^{イツ}

○世^セの^ノ名^ナあ^ラつ^クと^シ實^{ジツ}を^シた^シる^ルの^ノあり^テ元^{ゲン}服^{フク}此^{ココ}字^ジあ^ラれ^ルも^モ
烏^ニ帽^{ボウ}子^シ成^{セイ}か^クし^テる^ル一^{イツ}忌^キ服^{フク}と^シし^テ終^{シュウ}つ^ク喪^{モウ}後^ゴ
成^{セイ}と^シあ^ラれ^ルと^シあ^ラれ^ル一^{イツ}葬^{サウ}終^{シュウ}不^フ凶^{キョウ}腫^{シュウ}と^シあ^ラれ^ルと^シい^ハる^ル一^{イツ}
と^シ名^ナ字^ジと^シあ^ラれ^ル一^{イツ}倚^イ廬^ロより^{ヨリ}轉^{テン}じ^テあ^ラる^ル一^{イツ}
大^{ダイ}成^{セイ}の^ノ心^{シン}と^シる^ル一^{イツ}異^イ邦^{ホウ}と^シる^ル一^{イツ}形^{ケイ}と^シる^ル一^{イツ}伊^イ勢^{セイ}山^{サン}向^{キョウ}此^{ココ}
を^シ人^{ニン}と^シよ^クら^シり^テ曰^{イハレ}吾^ガ等^{トウ}の^ノ泉^{セン}神^{シン}信^{シン}成^{セイ}は^ハく^クと^シる^ル一^{イツ}
を^シり^テ知^チり^テけ^レる^ル一^{イツ}を^シ不^フ知^チる^ル一^{イツ}は^ハく^クと^シる^ル一^{イツ}水^{スイ}
此^{ココ}に^ニこ^トし^テる^ル一^{イツ}を^シ人^{ニン}と^シよ^クら^シり^テ大^{ダイ}に^ニけ^レる^ル一^{イツ}は^ハく^クと^シる^ル一^{イツ}
と^シい^ハる^ル一^{イツ}

○昔^{ソク}妻^メ戸^ドと^シる^ル一^{イツ}宮^{ミヤ}殿^{テン}廊^{ロウ}の^ノ端^{ツツミ}と^シる^ル一^{イツ}妻^メ戸^ドと^シる^ル一^{イツ}二^ニ枚^{バイ}と^シる^ル一^{イツ}

書
十一

長嘯子負德等出くわが一妻一枕青その路をよむ
やうとも藍出のすめつと化語分れ鼻裡とるるあま
より市小けくろの甲ふ耕ともの風雅あれるは
志きあその時 天舒ふ物送れ送集あ〜を序〜と或
公孫の云ちつてそ 揚別れ物ともいりんと一笑〜とわ
つまぬ 追考或云長嘯子ハ俳借ニ
アツカラサル人ニ
○廣川素とつる人長徳ふ志なく於てよの地よりま
る買監乃飲食とるをかき〜よりみるふつらふのさく
す〜やう〜ん一椀の飯と喫〜一杯乃酒のじもせ〜成
ろき〜隠子公あ〜幕とかけ 眺を〜してあ〜るあ
ふ飲食と〜そのさ〜ん〜と地帯の〜す〜とあ〜る

つ〜の代と〜とよ家書乃飲食のため〜る〜里の波
湯と志のさ〜く〜に〜る〜い〜て〜ろ〜る〜ふ〜喫〜は〜ん
や〜と〜て〜懇〜と〜る〜も〜炭〜を〜さ〜く〜結〜惹〜熱〜して〜喰〜や〜る〜ん〜す〜曰
飲食せ〜る〜ん〜人〜を〜積〜出〜お〜す〜る〜い〜より〜賓〜客〜此〜應〜接
小いた〜る〜も〜て〜系〜あ〜れる〜す〜か〜ら〜あ〜る〜つ〜よ〜る〜る〜の〜左〜昭〜廿八年
魏獻子曰吾聞諸伯叔諺曰唯食忘憂云 レヨウ 云蕉中條
師常小詩とみるふあ〜い〜い〜ふ字はけ〜を〜あ〜る〜る
字はを〜ら〜ゆ〜あ〜も〜ら〜り〜ぬ〜い〜
○北虜ふあ〜と〜あ〜い〜は〜う〜と〜つ〜と〜つ〜終〜あり〜往〜來〜日〜中
人その地へ漂流せ〜れ〜か〜能〜土〜人〜の〜系〜も〜あ〜い〜と〜い
ふ〜〜〜い〜多〜り〜漂〜客〜あ〜つ〜ま〜り〜つ〜ら〜る〜と〜と〜と〜

ふる石鍾乳の窟ありとあり同前

○有勅賜非人逸勢男龍劔實山等本姓聽入京為
時非人といふ監觸るる身一々刑餘の人と非人といふ
より其子孫までも非人といふ今の非人といふ者も
勅らつて賜ふ姓ありんや此載考澄の二小傳あり

○水脚賃の當時の取とて積まゝに運賃せり
物あり同前

○大鳥之怪々當時天狗とてそのおほききり此類
る身同前

○唐の吳兢といへる則天實錄にあり史官之直筆
無諱當世謂今董狐史官此身をきとも當時の

あゝいふまぢやどゞてゝかぶつてさおるり當時
今董狐といはるゝの唐人もよき事とてほめ
さしていへるおとそ知らしむるり有道のそふ當時の
とていふく書ねるるふ似きり當時のあり
るやいほくそかぬるもあり婉而為章と云ふ
○寛政十一年巳年紀別懸山中二十里はくり
奥より榜と出た藝別宮ふ此神門の製は長十
小口七尺ふ寸或六尺本末ともり紀の國ハ古名本此
そふかむるりの大木もありぬ身一々之なる堂の棟
梁も一棟の杵ありといふ紀の國より出た懸新宮は
とてふ東平野寺の殿つくり信濃飛騨より材本

きり出せし古今未嘗有の本ありといふ

○謗云唐公の席へ去とてし日本^ニの武士名^ヲ公^ノ措^スひし^ハや五^ノ代^ノ北^ノ時^ノ梁^ノの忠^ニ長^ニ王^ノ彦^ノ章^ノの^ノ終^ニ不^レ豹^ノ死^ニ留^ル皮^ノ人^ノ死^ニ留^ル名^ノといふ^ハり^ト轉^シく^ハある^ハなり

○源義経^ノ各^ノ其^ノ名^ヲ龜井^ノ等^ノく^ハ山^ノ東^ノ不^レ仁^ノも^ハむ^ク時^ノ中^ノ途^ニ日^ノく^ハ是^ノ一^ノ農^ノ名^ヲ不^レ投^ル宿^ニぬ^ハ其^ノ家^ノ見^ル女^ノ多^クよ^クと^シて^ハ義^ノ経^ノ是^ノと^シり^テ家^ノ名^ヲ曰^ク孫^ノ見^ル六^ノ人^ノ姫^ノ見^ル六^ノ人^ノ也^トち^ハあ^リく^ハ義^ノ経^ノ其^ノの^ノ心^ヲき^きく^ハや^ハゆ^くは^ハい^はし^める^ハ也^ト龜井^ノ其^ノの^ノほ^のま^の心^ヲけ^けめ^くあり^ぬ左^ノ傳^ノ傳^ノ縣^ノ老人^ノの^ノま^の相^ノ似^トたり

○月夜と賞とる國と唐とわの部より外ありと

是^ノ中^ノ北^ノ虜^ノの^ノ地^ノ介^ノの^ノ人^ノの^ノ奇^ノ石^ノ怪^ノを^ノ思^ハふ^ハめ^く也^ト是^ノ我^ノ嘗^シて^ハ酒^ノを^ノ飲^ミて^ハ其^ノ心^ヲ無^クし^める^ハん^ぞと^思ふ^ハん^ぞは^ハ花^ノを^ノ飲^ミて^ハ月^ノも^ノ寒^クそ^とし^じつ^とし^とく^ハみ^るも^ハ無^クなる^ハん^ぞと^思ふ^ハん^ぞは^ハた^りり^とし^じつ^とし^とく^ハみ^るも^ハ無^クなる^ハん^ぞと^思ふ^ハん^ぞは^ハそ^の里^ノの^ノ地^ノ味^ノと^シて^ハ常^ニに^ハ更^ニ易^ニと^シて^ハ其^ノ業^ヲと^シて^ハ優^ニ勝^スる^ハ也^トと^思ふ^ハん^ぞは^ハ松^ノの^ノ人^ノと^シり^とふ



